esplanade

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館

esplanade［エスプラナード］
APRIL 2023 | NO.211

esplanade

［エスプラナード］

APRIL 2023 | NO.211

contents

03　所蔵品紹介

04　天才絵師・岩佐又兵衛の魅力と謎

06　なにしてるの？月曜日の美術館

08　みんなで作品をみれば楽しい！
　　ギャラリーツアーに参加しませんか？

10　美術館スケジュール（4〜6月）

福岡アートアワード 初の受賞作家・作品決定！



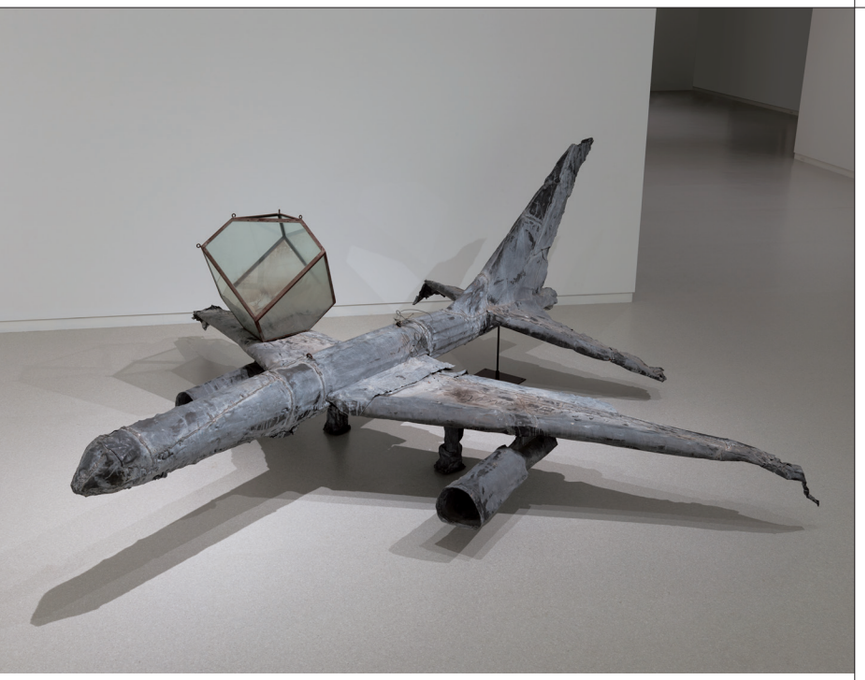
鎌田友介《Japanese houses（Taiwan/Brazil/Korea/U.S./Japan）》2021年

福岡市美術館がFukuoka Art Next事業の一環で、新たに創設した「福岡アートアワード」は福岡市内で目覚ましい活動をおこない、今後さらなる飛躍が期待できるアーティストを対象に、作品の買い上げをもって贈賞する賞です。昨年9〜10月で候補作家を募集し、選考をおこなってきましたが、この度初の受賞作家と作品が決定いたしました。82名の応募の中から選ばれたのは、市長賞が鎌田友介氏《Japanese houses (Taiwan/Brazil/Korea/U.S./Japan)》、優秀賞がチョン・ユギョン氏《Let' s all go to the celebration square of victory!》、石原海氏《重力の光》です。受賞作品は、現在、近現代美術室Bにてお披露目の展示をおこなっています。ぜひご覧ください。（受賞作品展は6月11日まで）

表紙の作品

所蔵品紹介

メランコリア



アンゼルム・キーファー
Anselm Kiefer
（1945−）

1989年
鉛、アクリル、砂、木、ウレタンフォーム
高さ170.5×幅496.5×奥行412.0㎝

変色し、埃を被ったような飛行機、主翼には砂や木片等が入った八面体が載せられており、壊れ古びた様相が作品全体に見られます。そして当然ながら、この飛行機が飛ぶことはありません。

作者のアンゼルム・キーファーは戦後ドイツを代表する作家で、ナチス時代等、負の側面も含めたドイツの歴史をテーマに制作しています。飛行機の壊れ古びた様子は戦争の痕跡を暗示していると言えるでしょう。一方で、神話や旧約聖書の寓意を取り入れるなど「主題」や「意味」を強く意識している作家でもあります。本作も15〜16世紀に活躍したドイツの画家アルブレヒト・デューラー作《メランコリアⅠ》を元としており、「メランコリア（憂鬱）」という概念は、古代の四大元素説に由来しています。鉛という素材も、キーファーいわく「鉛は錬金術では金に変成するとされており、神秘性を感じた*」ために使われたそうです。

実は鉛は変質や変色など他の金属よりも化学変化を起こしやすく、保存的な観点からもしばしば議論に挙げられる素材として知られています。しかしこの変化していく様が、むしろ作家にとっては神秘的で魅力的に見えるものなのかもしれません。

——学芸員（保存管理担当）渡抜由季

*https://www.sfmoma.org/artwork/98.309/
（最終アクセス日2023年3月14日）



画像５　若宮本《三十六歌仙》宮内卿（部分）



画像４　旧上野家本《三十六歌仙》大中臣頼基朝臣（部分）



画像３　旧上野家本《三十六歌仙》山部赤人（部分）





上：画像１　若宮本《三十六歌仙》後鳥羽院（若宮八幡宮蔵、福岡市美術館 寄託）
下：画像２　旧上野家本《三十六歌仙》柿本人麻呂（福岡市美術館蔵）

展覧会情報

全部見せます！
岩佐又兵衛《三十六歌仙》

◇会期：4月11日（火）～6月25日（日）
◇会場：1階 古美術企画展示室

天才絵師・岩佐 又兵衛の魅力と謎

この春、江戸時代の初めに活躍した天才絵師・岩佐又兵衛（１５７８～１６５０）が手がけた二組の《三十六歌仙》を展示します。実は当館がこのテーマで展示を行うのは今回が二回目。前回の展示「岩佐又兵衛 36×2」の企画者で、又兵衛を愛してやまない中山総館長に作品の魅力と謎を聞きました。

――インタビュアー：学芸員（古美術担当）宮田太樹

――展示されている二組の《三十六歌仙》の概要を教えてください。

一組は宮若市にある若宮八幡宮に伝わったもの（若宮本）です。［画像1］今から三十年以上前ですが、ある方から若宮本のスナップ写真を見せていただきました。一目見て「これは又兵衛作品かもしれない」と思い、作品調査を実施しました。岩佐又兵衛の新出作品として調査結果を報告したところ、美術史学会でも注目されるようになりました。その後、新聞報道を通じて若宮本は広く一般の方々からの関心を集めるようになり、NHKで番組制作も行われました。番組放映後まもなく、若宮本は当館へ寄託いただくことになりました。

こうした経緯もあって、福岡市美術館と若宮本は、世間を大いに賑わせたのですが、そんな中、ある古美術商より「岩佐又兵衛《三十六歌仙》を所有している」という情報が寄せられたのです。本作は、もとは朝日新聞社の社主であった上野精一氏が所蔵していたことから旧上野家本と呼ばれるものです。［画像2］かつて、又兵衛の最初期の作品として紹介されたものの、長らく所在不明となっており、平成に入って再発見されました。この時、私は福岡市美術館から福岡市博物館へと異動していたのですが、当時の美術館の学芸課長から相談を受けた折に、「なんとしても収集してほしい」と強くお願いしたことを覚えています。その後、旧上野家本は美術館へ収蔵され現在に至っています。

――２０１４年にてがけた「岩佐又兵衛 36×2」の狙いは？

岩佐又兵衛の《三十六歌仙》を二組も所蔵（若宮本は寄託）している美術館は当館以外にありません。しかも、旧上野家本は又兵衛が若いころの作品、若宮本は晩年の作品なので、二組を比べることで、又兵衛の作風の変化も分かります。当館は、２０１６年から二年半かけてリニューアル工事を行い、展示室のガラスや照明をすべて更新しました。今回の展示では前回以上に快適な環境で作品をご覧いただけると思います。

――それぞれの作品の見どころはどこですか？

旧上野家本の見どころは何といっても人物の表情です。［画像３・４］ひとりひとりの個性の描き分けが徹底されていて同じ顔は二つとありません。同時に極端に誇張されているのも特徴です。歌仙とは歌詠みのカリスマのような人ですから理想化して描くのが普通ですが、又兵衛の場合は逆に極端に俗っぽく描いています。歌仙絵を戯画風にパロディー化した作品と言ってもいいでしょう。旧上野家本からは、桃山時代の余韻が残る当時のおおらかな雰囲気や、幼くして母を亡くし数奇な運命をたどった又兵衛の屈折した人柄を感じるとることもできます。

一方、若宮本は又兵衛の晩年の作品と考えられます。頬がふくらんで顎の長い「豊頬長顋（ほうきょうちょうい）」と呼ばれる人物表現は若いころと同じですが、誇張や俗っぽさはなく、落ち着きと気品を感じさせる作風です。衣裳に施された文様や極細の金泥線など、卓越した技術にも注目してほしいです。［画像５］

――二組の《三十六歌仙》にはそれぞれ謎があるそうですね？

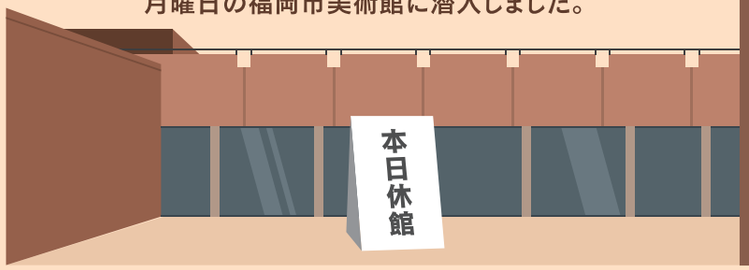
そうです。若宮本については、福岡に縁の無い又兵衛の作品が、なぜこの地に伝来したのかが謎です。この作品が制作された時期と近いころに若宮八幡宮を再建する任にあたった黒田家の家老黒田一成が関係している可能性を考えています。

それから、旧上野家本は、図上に書かれていた和歌がすべて削り取られているのが謎です。その理由を私は次のように推理します。先ほど述べたとおり、旧上野家本は伝統的な歌仙絵を戯画風にパロディー化した作品です。おそらく、このパロディー化は歌仙のみならず和歌にも及んでいたのではないでしょうか。そして、又兵衛が自作した和歌のパロディーは、相当にいかがわしい内容であったはずです。そうであればこそ、江戸時代の所蔵者などがその内容を許容することが出来ず、削り取ってしまったと考えられるのです。

――――話：総館長 中山喜一朗

なにしてるの？
月曜日の美術館

美術館の多くは、月曜日が休館日です。
その日はのんびりおやすみなのかな…と
思われているかもしれませんが、実はそうでもありません。
月曜日の福岡市美術館に潜入しました。





＼明日からの展示に向けて、がんばってます！／

ギャラリー A〜F

当館には市民のみなさんが利用できるギャラリーがあります。ここへ作品を搬入し展示する作業が行われるのも月曜日です。この日作業をしていたのは、福岡市中学校特別支援学級の先生たち。毎年恒例の「ファインアート展」の準備中です。「子どもたちも、自分の作品が美術館に展示されることが励みになっています」






＼いつものどおりの業務です／

事業管理課

館内の一室では、施設管理や予算執行の仕事も行われています。こちらの部署にとって月曜日は「ふだんの平日と同じです。いつもどおりの仕事をしています」とのこと。ちなみに美術館の仕事は「市民のみなさんによろこんでいただける、いい仕事です」だそうです。



いかがでしたか？月曜日の美術館も意外に忙しく過ごしています。また火曜日からのみなさまのご来館をお待ちしています。



ちなみに…この日の中山総館長は
ご自宅で執筆中！

＼ギャラリーの貸出サポートをしています／

広報運営グループ

ふだんは来館者の対応や、美術館の広報活動をしていますが、月曜日の特別な仕事といえば、ギャラリースペースを利用するみなさんへの施設・備品の貸出サポートです。



＼いつもの賑わいが嘘のような静けさ／

ロビー

ふだんは多くの来館者が行き交うロビーも、月曜日はおやすみモード。静かなロビーに登場したのは、清掃用マシンと掃除用具セットと清掃担当スタッフ。大切なタイルをピカピカに磨いて、汚れを落とします。




＼明日からのお客さんに備えて、おやすみ中／

カフェ、レストラン、ミュージアムショップ




＼やってくるのは来館者だけじゃありません／

警備室

ふだんから美術館の巡回をし、異変が起きていないかをチェックするのが仕事の警備さん。月曜日は工事会社や市民ギャラリーの搬入の受付があって大忙しです。警備さんのモットーは「命の次にカギが大事！」

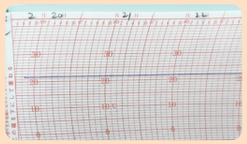


＼アナログな方法の良さがあります／

バックヤード

美術館の展示室のすみっこに置かれている温湿度計をご存知ですか？温湿度計の記録用紙は温度と湿度の数値の推移を記したもので、いつでも展示室やバックヤードの環境を確認することができるようにしています。アナログな方法ですがすぐ見て数値の変化がわかるのが特徴です。





＼ばっちり“監視”してます／

中央監視室

ここでは美術館全体の空調や設備の管理をしています。24時間365日、モニターで温度や湿度が大きく変化しないようにチェックしているので、月曜日も休みなし！「美術品はとても厳しく温湿度の管理が必要です」とのことで、展示室は夏は26℃、冬は22℃、湿度は年間通して55%に維持されています。




＼時間と戦っています／

展示室

月曜日にしかできない作業の1つが展示替えです。展示作品を入れ替える緊張感ある現場にお邪魔しました。作業は、担当学芸員と美術品輸送会社の専門スタッフが行います。1Fの古美術企画展示室で作業をしていたのは、宮田太樹学芸員。「展示替えの日は時間との戦いです。しかも計画した図面の通りに並べてみたら、なんとなくしっくりこないことも。ただそこから納得いくまでじっくり展示と向き合う時間は、ボーナスステージ的な楽しいひとときです」。





GALLERY TOUR

いよいよ再開！

みんなで作品をみれば楽しい！ギャラリーツアーに参加しませんか？

コロナ禍で中止していた当館ボランティアによるコレクション展のギャラリーツアーを4月より再開します。今回は、ツアーの内容と見どころをご紹介します。

当館ボランティアによる「ギャラリーツアー」は、展示中のコレクション作品の中からボランティアが選んだ3つを、参加者のみなさんとともに対話をしながら鑑賞します。今日はひと足早く、エスプラナード読者のみなさんに体感していただくべく、誌上ギャラリーツアーへお誘いします。

ツアーは、まず作品をじっくり見て、観察することから始まります。そして、ボランティアの「みなさんが見て気がついたこと、こうじゃないかな？と思うことを話してください。」という問いかけで対話が進みます。

今回のツアーでも、時間帯はいつ？どんな表情？なにを意味しているの？と、みなさん作品を見ながら自由に発想を膨らませます。誰かが発言した内容が想像力を刺激して、新たな発見が引き出されることも。見たことがある作品でも、様々な人と対話をしながら鑑賞することで、自分では考えつかないような見方を知ることがあるのです。さらにおもしろいことに、見るたびに作品の見え方が変化するなんてこともあり、何度でも楽しめます。

以前はそれほど気にならなかった作品に、ぐっと心が惹かれるなんてことが起きるかもしれません。

最後にボランティアのみなさんに、ギャラリーツアーの推しポイントをうかがいました。

「わたしたちも一緒に対話しながら鑑賞することで、来館者の方に教えていただくことがたくさんあります」「美術館で、〝静かに〟だけでなく、ザワザワとみんなで話しながら見るのも楽しいですよ」「わたしたちの美術館は、本当にいい作品が目白押し。これがたった200円の入場料※1で鑑賞できますから、ぜひお越しください」。

1人では、何となく通り過ぎてしまう作品もツアーで皆と鑑賞すると、新しい気づきや楽しみがありそうです。ぜひ参加してみてくださいね。

※1 大人のコレクション展観覧料

1 ルイ=ジョゼフ=ラファエル・コラン《海辺にて》





ボランティア
横山さん

ボランティア
踊っているのかな？
それともポーズを決めている？

参加者
暖かそうだけど海も穏やかそうだから、春や秋でしょうか？

日差しの感じが夕方っぽく見えます

3ヶ所に人を分けて配置しています

手を伸ばしている人は、『一緒に入らない？』と誘っている感じ

誘われても躊躇していそう

全体からは優しい印象を受けますね

2 インカ・ショニバレCBE《桜を放 つ女性》





ボランティア
河野さん

参加者
まるで手品みたいな作品ですね

ボランティア
なぜ頭が地球儀になっているんだろう

このドレスはヴィクトリアン様式ですね？

ドレスとライフルと地球儀と花がミスマッチでシュール

女性は“優しい、美しい、おとなしい”と言われがちですが、それに抗っているみたい

これは桜でしょうか？
色がいろいろあるから違うのかな

ライフルから、平和を象徴する花が飛び出しているところに意図を感じます

3 《金剛力士立像（吽形）》





ボランティア
吉川さん

参加者
頭と乳首が、人間とはずいぶん違いますね。ビームでも出そう

親指とそれ以外の指が全然違う

おなかがミッフィーちゃんみたい

笑

ボランティア
黒目がないのでしょうか？
どこを見ているんだろう

どこにいても、見ている人と目が合うように黒目がないのかも

言葉を発していませんが、なにか言いたげですね

ボランティアによるギャラリーツアー

展示中のコレクション作品の中から
ボランティアが３点を選んで紹介します。

4月11日（火）～
休館日を除く毎日 11:00～、14:00～（40分程度）

集合場所：1F ロビー
（開始５分前にお集まりください）

予約不要
（但し10名以上の団体は要事前連絡。電話 092-714-6051）

料金：参加無料（要コレクション展観覧券）

美術館スケジュール　● 休館日

4月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火

5月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火

6月 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金

特別展（2階）

4月8日（土）～6月4日（日）
- ミュシャ展　マルチ・アーティストの先駆者（お問合せは本展事務局（西日本イベントサービス内）TEL 092-711-5491へ　平日9:30～17:30）

コレクション展 近現代美術（2階）

～6月11日（日）
- コレクションハイライト（近現代美術室A）

3月24日（金）～6月11日（日）
- 新収蔵品展（近現代美術室A）

2022年度に収蔵した近現代美術作品を紹介します。

3月29日（水）～6月11日（日）
- 第1回 福岡アートアワード受賞作品展（近現代美術室B）

～6月11日（日）
- コレクションハイライト（近現代美術室C）

6月22日（火）～
- コレクションハイライト（近現代美術室A）

6月22日（木）～8月27日（日）
- 山好きな画家たち（近現代美術室A）

画家たちが様々な表現で描いた山の風景や営みを紹介します。

6月22日（木）～9月10日（日）
- 時代で見る美術　1940年代（近現代美術室B）

6月22日（火）～
- コレクションハイライト（近現代美術室C）

コレクション展 古美術（1階）

～4月9日（日）
- 東南アジア美術を旅する タイ、カンボジア、ミャンマー

4月11日（火）～6月25日（日）
- 全部見せます! 岩佐又兵衛《三十六歌仙》（古美術企画展示室）

4月11日（火）～6月25日（日）
- 新収蔵品展（古美術企画展示室）

6月27日（火）～9月10日（日）
- 夏休みこども美術館2023 うつくsea! すばらsea!（古美術企画展示室）

～4月2日（日）
松永耳庵と同時代の美術家

4月4日（火）～6月11日（日）
- 春の名品展（松永記念館室）

春から初夏へと移ろう時節に適した茶道具を、松永コレクションの名品により展示紹介します。

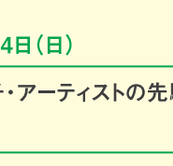
6月13日（火）～8月20日（日）
- 懐石のうつわ―向付・鉢・酒器（松永記念館室）

通期
- 東光院のみほとけ（東光院仏教美術室）

LECTURE

つきなみ講座

APRIL-JUNE 2023



毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順（30分前開場）※定員等は変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

4月

美術品の梱包と輸送よもやまばなし

美術品の梱包・輸送といっても大きさや形等によって手法は様々で、気を使わなくてはいけないことが沢山あります。今回は美術品の梱包や輸送のあれこれについて当館の所蔵品を中心にご紹介いたします。

日時：4 月 22 日（土）15:00-16:00
会場：レクチャールーム（定員 54 人）
講師：渡抜由季（学芸員・保存管理担当）



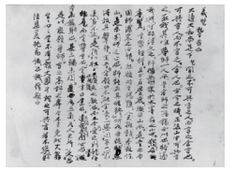
サルバドール・ダリ《ポルト・リガトの聖母》

5月　つきなみ講座スペシャル

仙厓さんのすべて（6）

数多い仙厓の禅画の中でも最高難度の作品「○△□」を、あらゆる角度から考えてみます。そこに、禅の真理と仙厓の目指したもののー端を読み取ることができるかもしれません。

日時：5 月 20 日（土）14:30-16:00
会場：ミュージアムホール（定員 180 人）
講師：中山喜一朗（総館長）



仙厓義梵《大通和尚宛書簡草稿》石村コレクション

6月

ミュージアムと多文化共生

当館で2022年に初めて行った福岡市在住の外国人親子を対象とした「やさしい日本語」ツアーを振り返りながら、ミュージアムと多文化共生について考えます。

日時：6 月 17 日（土）15:00-16:00
会場：レクチャールーム（定員 54 人）
講師：﨑田明香（学芸員・教育普及担当）



2022年度の「やさしい日本語」ツアーの様子

ギャラリー A-F 2階

4月4日（火）～4月9日（日）
- 第89回独立展（ギャラリーA、B、C、D、E、F）

4月11日（火）～4月16日（日）
- アトリエ霤月仏画展（ギャラリーA）
- 第35回蘭亭書道展（ギャラリーB、C、D、E、F）

4月18日（火）～4月23日（日）
- 写真倶楽部「絆」作品展（ギャラリーA）
- 岩田 節子 回顧展（ギャラリーB）
- 「書のときめき展'23」ー墨会創立30周年記念（ギャラリーC、D）
- 一字の書（ギャラリーE）
- 第7回自然と彫刻が好きな人たち（ギャラリーF）

4月25日（火）～4月30日（日）
- 第3回桑沢デザイン研究所同窓会九州支部展（ギャラリーA）
- 第5回九州けやき会展（ギャラリーB、C、D）
- 「アートヒーリング展示会」（ギャラリーE）
- 自由課題 たなけん展Vol.8（ギャラリーF）

5月2日（火）～5月7日（日）
- 魚心堂展覧会（ギャラリーA）
- アートスタジオ アライヴ 鉛筆画教室100人展（ギャラリーB、C、D）

5月2日（火）～5月7日（日）
- 創美第2回 子ども書写コンクール作品展（ギャラリーE）
- 「娘の成長の記録と病死した母親の記録」（ギャラリーF）

5月9日（火）～5月14日（日）
- HOME COMING（ギャラリーA）
- 遊美塾福岡 写真展（ギャラリーB、C、D）
- のとり絵画塾展（ギャラリーE）
- 第39回九友会絵画展（ギャラリーF）

5月16日（火）～5月21日（日）
- 第38回 水墨祥泉会展（ギャラリーA）
- 九州日中水墨研究発表展（ギャラリーB、C、D）
- アルシュ展（ギャラリーE）
- 瑞の会（ギャラリーF）

5月23日（火）～5月28日（日）
- A's glass ステンドグラス教室展（ギャラリーA）
- ななくま絵画クラブ展（ギャラリーE）
- "第22回福岡写稜会写真展-山を想うひととき-"（ギャラリーF）
- 平山みち子展 ～花と友に～（ギャラリーB）
- 岩永敬三回顧展（友情展）（ギャラリーC、D）

5月30日（火）～6月4日（日）
- "九州産業大学 芸術学部・大学院芸術研究科作品展「九芸展2023」"（ギャラリーA、B、C、D、E、F）

6月6日（火）～6月11日（日）
- 「火曜日の仲間」展（ギャラリーA）
- "ARS写真クラブ作品展「雑記帳」～それぞれの視線で～"（ギャラリーB、C）
- 福岡二紀小品展（ギャラリーD）
- グループ わらべ水彩画展（ギャラリーE）
- 第3回軟展（なんてん）（ギャラリーF）

6月13日（火）～6月18日（日）
- Color（ギャラリーA）
- "九州産業大学芸術学部写真・映像メディア学科百瀬ゼミナール写真展"（ギャラリーB、C、D）
- "九州産業大学芸術学部写真・映像メディア学科進藤ゼミナール写真展"（ギャラリーE、F）

6月20日（火）～6月25日（日）
- 『閑暇』L'ATELIER BOIS 10th Anniv.（ギャラリーA）
- 福岡読売写真クラブ 第13回写真展（ギャラリーB）
- 福井書塾発表会〝この道〟（ギャラリーC、D）
- 藍と絞り 第21回シボリコミュニティ福岡作品展（ギャラリーE）
- 第2回アートももち作品展（ギャラリーF）

※展覧会およびイベントに変更が生じる場合があります。来館前にホームページで最新情報をご確認ください。

福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体

SEKISUI HOUSE　大王製紙株式会社　QTnet　福岡銀行　NIPPON EXPRESS

ウエスト　人につくす、街につくす。セイワ世研　AZUSA SEKKEI　九州電力 ずっと先まで、明るくしたい。　草苑

ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに!もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ（http://www.ffac.or.jp/wa/）またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

MUSEUM SHOP
ミュージアムショップ



トートバッグ
仙厓犬図
1,430円（税込）

当館オリジナル、仙厓義梵《犬図》のトートバッグです。かわいらしい犬を連れて、おでかけも楽しくなります。薄い帆布生地で作られており、丈夫で軽く使い勝手が良く、人気のグッズです。

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館ウェブサイト
www.fukuoka-art-museum.jp

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6　TEL：092-714-6051（代表）　FAX：092-714-6071
【開館時間】 9:30～17:30（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00） ※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】 月曜日、年末年始（12月28日～1月4日 ※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日）

esplanade　APRIL 2023 | NO.211

福岡市美術館　季刊誌エスプラナード211号　発行日：2023年4月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）【編集】浅野佳子（nico edit）【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ
【発行】福岡市美術館（〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 https://www.fukuoka-art-museum.jp）